

熊本県立大学 環境共生フォーラム

「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」を終えて

去る平成 25 年 3 月 2 日(土) 13:30～17:00、本学中ホールにて、環境共生フォーラム「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」を開催しました。

本学では、平成 24 年 4 月から、第 2 期(平成 24 年 4 月～平成 30 年 3 月)の中期計画が始まり、その重点的な取り組みの一つである「特色ある研究の推進」では、本学環境共生学部環境資源学科を中心に「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究プロジェクト」を創設しました。このフォーラムでは、この研究プロジェクトに関わる本学科教員の役割と研究内容を紹介し、今後の研究の方向や環境共生型産業の振興へのアプローチについて議論されました。

当日は本学教員を除いて約 100 名の参加者があり、そのうち約 30 名は学外の方でした。

フォーラムではまず、NPO 法人クリエイト九州理事長の川上義幸氏から「健全な水循環系の構築を目指して」と題した特別講演が行われました。講演では、佐賀県における産学官包括連携事業の事例をあげて、健全な循環系社会の構築に大学の社会貢献戦略・地域連携の推進・人材の育成及び地域課題の取り組みなどについて説明されました。会場からの質疑応答では、本学がこれからの地域社会との連携に関して様々な観点から貴重なコメントをなされました。講演及び内容については次のとおりである。



講演される川上義幸氏



会場からの質疑応答の様子

またセッション I において、「都市河川の河口域をめぐる物質循環」をテーマに、講演 1 では本学環境分析化学研究室の小林淳助教が「河口域における残留性化学物質に関する研究」と題して水環境中の残留性化学物質の現状と今後の研究戦略、そして研究の進捗を紹介されました。

講演 2 では本学海洋生態学の小森田智大助教が「都市部の河口域に残された自然の再評価」と題

して、河口域の窒素循環に関する研究を紹介されました。

さらにセッションⅡにおいて、「沿岸環境・生態系の保全と持続的な水産資源の利用」をテーマに、講演 1 では本学海洋生態学研究室の堤裕昭教授が「有明海の豊饒の海を取り戻すために何が必要か？」と題して近年、有明海が赤潮や貧酸素水の発生により豊饒の海が著しく衰退している現状を紹介され、これらの問題を解決するためにはどのような対策が必要となっているのかについて解説されました。

講演 2 では本学形容資源学研究室の一宮陸雄講師が「八代海の海洋生物資源回復に関する研究」と題して、八代海で重要な漁業資源であるブリ・タイおよびノリ養殖の現状とそれらの水産物に大きな被害をもたらす赤潮の問題を解説されました。

最後にセッションⅢにおいて、「バイオマス資源探索とその利用」をテーマに、講演 1 では本学森林生態学研究室の井上昭夫准教授が「木質バイオマスの利活用推進に向けて」と題して、木質バイオマス利活用のポイントとこれまでの研究概要を紹介されました。

講演 2 では本学環境素材学研究室の石橋康弘教授が「メタン発酵によるバイオマスの利活用」と題して、熊本県内のバイオマス賦存量の分布と特定微生物を用いた新しいメタン発酵技術を紹介されました。